

平成 19 年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査
第 1 回地域検討会（熊本県） 議事概要

日時：平成 19 年 9 月 14 日（金）
13:30～16:00
場所：苓北町コミュニティセンター
大会議室

議 事

開会（13:30）

- 1．環境省あいさつ
- 2．資料の確認
- 3．検討員の紹介〔資料 1〕
- 4．座長選任
- 5．議事

平成 19 年度調査の全体計画に関する説明〔資料 2〕

概況調査計画に関する説明〔資料 3〕

クリーンアップ調査及びフォローアップ調査計画に関する説明〔資料 4〕

その他の調査計画に関する説明〔資料 5〕

- 6．全体を通じたの質疑応答
- 7．その他連絡事項

閉会（16:00）

配布資料

- 資料 1 平成 19 年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査地域検討会（熊本県）検討員名簿
- 資料 2 平成 19 年度調査の全体計画（案）
- 資料 3 概況調査計画（案）
- 資料 4 クリーンアップ調査及びフォローアップ調査計画（案）
- 資料 5 その他の調査計画（案）

参考資料 1 対策の方向性（目標設定）の検討

参考資料 2 クリーンアップ調査マニュアル

平成 19 年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査地域検討会（熊本県）

第 1 回地域検討会 出席者名簿

検討員（五十音順、敬称略）

小野 三幸	苓北町農業協同組合 女性部 部長
尾上 徳廣	上天草市 農林水産課 課長
（代理 坂本一也 上天草市 農林水産課 参事）	
角岡 正一	天草漁業協同組合 苓北支所 支所長
神戸 和生	熊本県 天草地域振興局農林水産部 部長
桑原 千知	樋島漁業協同組合 代表理事組合長
児玉 修	熊本県 天草地域振興局保健福祉環境部 部長
小幡 孝行	上天草市 環境衛生課 課長
篠原 亮太	熊本県立大学 環境共生学部 教授
下野 隆司	国土交通省九州地方整備局 熊本港湾・空港整備事務所 第 1 工務課 課長
（欠）滝川 清 熊本大学 沿岸域環境科学教育研究センター 教授	
田嶋 健一	天草郡苓北町 生活環境課 課長
田中 誠也	熊本県 天草地域振興局土木部 部長
寺下 進一	国土交通省 八代河川国道事務所 河川環境課長
西田 克典	天草郡苓北町 土木管理課 課長
福本 英治	海上保安庁 熊本海上保安部警備救難課海上環境係 主任
本田 恵則	熊本県環境生活部 廃棄物対策課 課長
松本 公博	NPO 法人 天草元気工房 理事長
（代理 松本俊介）	
山崎 廣喜	上天草市 建設課 課長
若松 善久	海上保安庁 天草海上保安署 署長

オブザーバー（所属機関名）

熊本県土木部 河川課
 熊本県農林水産部 農林水産政策課 漁港漁場整備課 水産振興課
 熊本県環境生活部 廃棄物対策課
 熊本県天草地域振興局 保健福祉環境部衛生環境課 農林水産部漁港課 土木部維持管理課
 苓北町農業協同組合 経済課

環境省

三 邊 一 文	地球環境局 環境保全対策課 環境専門員
中 村 雄 介	九州地方環境事務所 廃棄物・リサイクル対策課 廃棄物対策等調査官
柘 植 規 江	九州地方環境事務所天草自然保護官事務所 自然保護官

事務局：日本エヌ・ユー・エス(株)

岸 本 幸 雄	取締役 環境コンサルティング部門 部門長
畔 野 尚 史	環境設計ユニット
常 谷 典 久	HSE コンサルティングユニット
久木田 香穂里	HSE コンサルティングユニット
中 澤 和 子	地球環境ユニット

議題1 平成19年度調査の全体計画について(資料2)

質問・コメント等はなし。

議題2 概況調査計画について(資料3)

(連続して説明)

1) モデル地域の選定の経緯について(座長より環境省及び県に説明を要求)

全国の自治体に呼びかけ、要望のあった地域の中から選定した。選定に際しては、漂着性に加え地域の協力を得られることを勘案した。熊本県は、雲仙・天草国立公園を有する風光明媚な地域であること、干満の差が大きいという自然条件、過去に台風による流木被害があったことなどから選定した。

樋島海岸は内湾に面した海岸である。熊本県では有明海・八代海の保全対策に取り組んできており、樋島海岸については、八代海に面し球磨川の影響を受ける海岸で、漂流ゴミがたまる場所でもある。昨年も流木が大量に押し寄せて復旧作業を実施した。一方、富岡海岸は外海に面しており、外洋からのゴミが漂着している。内湾と外海という2つの異なる自然的特性をもつ一方、両海岸ともに国立公園内にある海岸で景観の保全の意味からも今回のモデル地域に指定した。

2) 苓北町は、富岡海岸がモデル地域になっていることを別の機関紙で知った。手を上げたわけではない。

3) 樋島海岸が何故指定されたのかわからない。漁民は指定されることにより、なんらかの規制がかかるのではという心配をしていた。漁民にとっては、海ゴミの除去を行政に取り組んでもらえるのは有り難い。

規制のかかる事業ではない。

議題3 クリーンアップ調査及びフォローアップ調査計画について(資料4)

回収したゴミの処理に伴う費用負担

1) 回収した海ゴミを町の一般廃棄物として処理した場合、ゴミの搬入量に応じて2年後に負担金が増えることになる。国の事業により町の負担が増えるのは困る。産業廃棄物として処分してほしい。

調査後の作業継続性を考え、可能な限り産業廃棄物ではなく、一般廃棄物としての扱いとしたい。

2) 地域連合で処理したゴミの量については年度末に集計ができるので、負担金についてはその時に試算できるはず。その金額をこの事業で負担してもらえれば、負担金の問題はクリアされるのではないか。

回収したゴミの処分については重要な問題であり、出口が決まらなると調査が始められない。

3) 熊本県にも議論に加わっていただき、上天草市、苓北町を指導していただきたい。そして継続性を持つ海ゴミの処理方法を検討してもらいたい。

4) 平成18年度下桶川漁港に漂着した441m³の流木の除去事業に500万円をかけて産業廃棄物として処理した。県では土木、農林などそれぞれの所管の海岸における通常の見海ゴミの処理については予算を持たないのが実情。補助金を出してもらえるようにしてもらいたい。

処理の考え方

1) 海ゴミを最初から「ごみ」と考えるのではなく、再生可能な資源として捉える考え方もあるのではないかと。流木を利用して炭を作る活動を行っており、難しい技術も必要ない。この事業の中でも出来る範囲で協力していきたい。

そうした方策についても検討していきたい。

調査関連

- 1) 調査員の賃金はいくらか、全国一律か。
1時間あたり1,000円で実働7時間、1日7千円(弁当、水筒持参)を考えている。水の不足分については別途補給する。賃金については、すべての調査地点で一律である。
- 2) 保険はかけてもらえるのか。
参加者全員に保険をかける。
- 3) 調査は天候に左右される。危険な海岸もある。船の手配など地元とよく協議してほしい。
安全第一で調査を行う。
- 4) 可能なら、現在の調査範囲に加えて外平海岸の方も対象にしてもらえないか。理由は、調査範囲とは海流の関係でゴミの漂着するメカニズムが異なるためである。
ゴミ漂着のメカニズムについては、地元の知識を整理するのが一番であるのでご教示いただきたい。調査範囲への追加については、今年度は難しい。今年度は充分観察させていただき、必要性があれば来年度の扱いを検討していく。
- 5) 航空写真等得られた情報に関しては、なるべく報告書に記載していただきたい。
拝承。
- 6) 医療系のゴミは誰が回収するのか。
JANUSスタッフが担当する。
- 7) 調査枠はどこに設置するのか。
調査枠は常設するのではなく、調査ごとに定点に設置し、調査終了後全て撤収する。

議題4 その他の調査計画について(資料-5)

質問・コメント等はなし。

議題5 全体を通じての質疑応答

- 1) この事業は2年間で終了とのことであるが、その後も同様の事業を継続するつもりはあるか。
2年間の調査で、地元の活動に役立つような情報を提供できるようにしていく。
- 2) 熊本市方面からの出席者も多いので、次回の検討会は上天草市で開催してもらいたい。
今年度の残り2回の検討会については、上天草市、熊本市、2調査点の間である天草市本渡地区などでの開催を考えている。

以上